

★企画P02台本『LADY CL/ROWN』
原案：Ariesta
協力：Aria
台本：Ariesta

【以下は3話～6話台本の一部抜粋】

★『3話 離ればなれのグローブ』
ヴィルロア／ヘルガ
ルクレツィア／ティエール／ウォルター
ファンダリア／レオミュール
フィンレー

●ルクレツィア拠点

ルクレツィア「ふえええええ、つくしゅん！」※大クシャミ

ウォルター「ルクレツィアさま！ 大変！！ オクスリ買ってこないと！！」

ルクレツィア「大丈夫よ。ただティエール以上のおバカがいるとはと。頭痛が……」※呆れと落胆

ウォルター「やはりオクスリいいい」※慌てて出ていく

ルクレツィア「だから違いま、、ってもういない」

フィンレー「おすそわけですよ。権利は均等に。それに白手袋です。正々堂々手順を踏むにはピッタリですよ」※堂々爽やかに

ルクレツィア「あたくしに説明なしは手順のうちでございまして？」

フィンレー「それは失念です。大変もうしわけございませんでした」※堂々爽やかに

ティエール「うわー爽やかだなー」※傍観者

ルクレツィア「はあー……【※大溜息】。済んだことは仕方ないですけど。それでなんと
言付けましたの？」

フィンレー「今から1時間後に決闘を申し込みました」

ルクレツィア「そう……。って、はあ！？ 場所は！？」※おどろく

フィンレー「貴族街入口、時計塔裏を集合にしました！」

ルクレツィア「それ、もう出ないと間に合わないですわよ！？」

フィンレー「その通りです！」

ルクレツィア「準備しましてよティエール！」

ティエール「はい！ ルクレツィア様！」

以上 3話サンプル

★『4話 裏切りのチョーカー』

ヴィルロア／ヘルガ
ルクレツィア／ティエール／ウォルター
ファンダリア／レオミュール
ジュード

●ヴィルロア拠点／サロン
ジュード「いたたたた……」

ヴィルロア「わらわは何もしておらぬぞ」

ジュード「オイラが勝手に転んだだけっす」

ヘルガ「こちらでお冷やしてください」

ジュード「かたじけないっす」

ヴィルロア「おぬしが頼るのはルクレツィアではないのか？」

ジュード「ん？ あんたがルクレツィアじゃないっす？」

ヴィルロア「ぬ？」

ジュード「ここにいくようにと言われたっすよ」

ヴィルロア「確かにルクレツィアのところの地図よの」

ファンダリア「でもこれ逆（さかさ）……」

ジュード「ええええ！？」

ヴィルロア「それでココに。そそっかしいのう」

ジュード「目立つからすぐわかるって……」

ファンダリア「確かに目立ちますよね」※苦笑

ヴィルロア「なにはともあれ飛んで火にいるなんとやら！ おぬしの持ってる装具を渡すがよい！」※悪役のようにズビシと

ジュード「も、もってないんすよ！！ 盗まれたっす！！」

ファンダリア「ええ！？」

ヴィルロア「なぬ！？」

以上 4話サンプル

★『5話 孤独なヒール』

ヴィルロア／ヘルガ
ルクレツィア／ティエール／ウォルター
ファンダリア／レオミュール
ゼノ／クロエ／フィンレー

その他ガヤ

●ゼノ 拠点

ゼノ『争奪戦参加者の皆様、この度はわたくしの意志をお受け取りくださりありがとうございます。ここにございますのは装具のひとつ、ヒール。わたくしの課題を乗り越え、胸に抱いた方にお譲りしたく存じます。また本争奪戦は主催者の意向によりこれまでに敗退された方の参戦も許可されてございます。ただし二人一組での参加をお願いいたします。今一度資格を、と望む方は郊外のヴィラにお集まりください。皆様のご訪問楽しみにお待ちしております』※演説するように手紙を読む

ゼノ「……と、いう感じでよろしいかしらレオン」

レオミュール「はい、ありがとうございますゼノ様。お手数おかけしまして申し訳ございません」

ゼノ「あたしはかまわなくてよ。貴族長のお守り（おもり）のほうが大変と想着ていましたよ」

レオミュール「役目ですから」

ゼノ「相変わらずねえ。ふふ」

レオミュール「（ため息）」

以上 5話サンプル

★『6話 黒白のハイ&ロー』

ヴィルロア／ヘルガ
ルクレツィア／ティエール／ウォルター
ファンダリア／レオミュール
ジュード
その他ガヤ

●ルクレツィア 拠点

ヴィルロア「残り2日。装具は焼け失せ、ダリアは失神。ルクレツィア、ウォルターは行方不明。最後の装具はいまだ所持者知れずときた」

ティエール「何が何やらですね」

ヴィルロア「どうしたものか。ヘルガに頼みたいがダリアにつきっきり」

ティエール「あ！　じゃあオレが王女様に」

ヴィルロア「おぬしは調べるのぞ」

ティエール「ええー、オレ一般孤児ですよー」

ヴィルロア「なにをいう。地下の麒麟児」

ティエール「へ」

ヴィルロア「ルクレツィアはその辺甘いが、」

ティエール「あー……、ヘルガさんですか」

ヴィルロア「そうともいう」

ティエール「何をすれば？」

ヴィルロア「貴族長を探してほしい」

ティエール「そっちですか」

ヴィルロア「名は知っているか？」

ティエール「ウォルター・ブランシュシルト。いやまさか」

ヴィルロア「念のためぞ」

ティエール「わかりました」

以上 6話サンプル

HP／奇蹟の音箱 : <https://archaries.web.fc2.com/>